

サービスマーケティングを通しての学びについて

活動先：NPO 法人 エンド・ゴール

クラス：石川 満 先生

1. 特に印象的だった活動

私は、NPO 法人エンド・ゴールで活動しました。エンド・ゴールでは、インターンシップの学生も受け入れており、活動は、インターンシップで来ている先輩方と一緒に活動を行った。

エンド・ゴールでは、主に若者の就職支援を行っている。その事業の一環で、カフェの設立をスタッフの方と一緒に進めるという活動を行った。

その中で特に印象的だったことは、駅前での聞き取り調査である。駅前を通る人に声をかけて、今後カフェに求めるものなどを聞くアンケートを行った。見ず知らずの人に突然声をかけて聞きたいことを質問していくのは難しいことである。しかしそれ以上に、まず声をかけるということ自体が難しく、非常に勇気のいることであった。知らない人と打ち解けることは、今後必要な力であると思ったから、うまく活用したい。

何より一番残念だったことは、カフェのオープンが延期になり、私たちが企画したイベントが中止になったことである。カフェ運営のためのスペースを提供していただいた半田市との意見が合わず、オープンを見送ることになった。そのため、企画していたイベントもできなくなったのである。

積み上げてきたものが急に崩れることは、社会ではよくあることであるということが分かった。サービスマーケティングなど学校が関わって、ある程度決められた活動ではなかなか経験できないことを経験したので、貴重な経験になった。また、失敗をしたことで、失敗の処理など、やらなければならないことが増えたり、軌道修正しなければならないことがあったりと、社会で必要なことを学ぶことができた。

2. 活動を通しての気付き・成長

活動が始まってすぐ、インターンシップの学生と協力してカフェの運営についてアイデアを出すことがあった。初対面の人同士で議論を進めるのが難しく感じたが、次第に慣れてそれぞれ役割を持って活動することができた。

エンド・ゴールの本部で活動を行うときは、朝の掃除から最後まで、普段エンド・ゴールで働いている方と同じように過ごし、働いているという感覚を感じた。また、活動の初めから、学生のみで一つの企画を考え、それに向けて行動してきたので、企画を立てる力が少し付いたように思う。カフェで行うイベントで、何か地域の魅力を発信できるような企画を立てた。しかし、実際に予算や利益を見込んで考えることはあまりできていないので、その点、まだ勉強が必要だと感じた。

3. 活動を通して見えてきた地域課題や社会課題

今回の活動で関わったカフェは、地域の活性化を図ることが目的で、地域の魅力を発信していく場になるようなカフェを目指している。活動を通してわかったことは、様々なことを行っている NPO 法人だが、何をすることも、いろいろな制約があり、思うように動けないことが多いということがわかった。実際に、カフェのオープンが延期になったので身をもって感じた。今回の活動では、エンド・ゴールの主な活動である就職支援とは無縁であったため、主な活動の部分ももう少し見ることができたなら、もっと成長できたのではないかと思う。エンド・ゴールでは、定期的に勉強会等を行っているので、それらのイベントに参加して、エンド・ゴールに関わっていきたいと思う。

4. 一年間の総括

私がサービラーニングを選択したのは、他のゼミとは違う活動がしたかったからであり、サービラーニングを選択すると、より多くのことを身につけることができると思ったからである。

活動を終えて振り返ってみると、他のゼミでは経験し得なかったことが多いと感じた。はじめは、いきなり社会に放り出された気分で、自分の非常識さに苦しんだ。その分社会勉強になることが多く、当たり前であるが、挨拶や期限を守ることの大切さを改めて勉強することができた。

活動前に計画していたことが、活動先との関係で実現できなかったが、活動先からの提案で活動を進めていく中で、日々成長を感じることもできた。

サービラーニングの中で一番重要な振り返りも、一日の終わりに毎回することで、その日どれだけ頑張ったか、どのような課題があつて次につなげなければいけないのかを確認しながら活動することができた。